

【湯田ダム】豪雨災害への備えを学ぶ！

令和元年9月1日（日）に行われた北上市の総合防災訓練と連携し、ダム下流住民と実践的な勉強会を開催しました。

この勉強会は、湯田ダム完成から54年が経過し、下流地域住民には「ダムがあるから大丈夫」という認識もあり、水害に対する意識が低下している中で、近年、各地で発生している集中豪雨など、湯田ダム流域でこれまで体験したことがない大雨が発生した場合、ダム下流でどのような行動が必要になるのか、下流地域の皆様に理解していただき、有事における確実な避難行動につながるよう北上市と連携した勉強会を開催したものです。

勉強会では、避難訓練の検証会に出席いただいた二子地区の自主防災組織代表の方、15名が参加し、「湯田ダムの簡易模型を用いたダムの具体的な操作方法と下流の状況」、ダムからの「サイレン吹鳴」音、「異常洪水時のダムからの警報と避難勧告のレベルとタイミング、エリアメールの内容」等を説明し、活発な意見交換や質疑応答がありました。



「ダムの効果や警報タイミング等」

- ・ 出水における流木の捕捉効果
- ・ 異常洪水時のダムからの情報や警報等のタイミング
- ・ 放流通知と警戒レベルの関係
- ・ 緊急放流時のエリアメールの内容



「アンケートで出された代表的な意見」

- ・ 一般人には、普段知りえない知識だった。勉強になった。
- ・ 水害は関係ない地区だと自分達は大丈夫という意識が強い。
- ・ お年寄りだとホームページやケータイを見る方が少ないと思うので、広報手段も検討したほうがいいと思った。



「職員手作りの簡易模型による対話式の説明」

- ・ 通常のダム操作と下流の状況
- ・ 異常洪水時のダム操作と下流の状況
- ・ 勉強会終了後にも、一般来場者（特に親子）に向けた説明を継続し、周知を図った。

湯田ダムでは、今後もダム下流地域住民との勉強会を実施してまいります。